

令和6年度 シラバス

学科・学年	国際 IT システム学科		1年
科目名	言語基礎 IA (語彙・文法)	科目区分	一般科目・ 専門科目
開講期	前期 ・後期・通年	担当教員	岡崎 良美 高橋 真実
時間数	前期：66 時間 / 後期：時間		
科目の目的と講義内容	<p>日本で就職するために必要となる日本語能力試験 JLPTN2 を取得するために必要な N2 の内容や範囲の学習を行う。</p> <p>主に言語知識の語彙・文法の内容を行う。</p> <p>高橋：語彙・文法 岡崎：語彙</p>		
目指す検定・資格	日本語能力試験 (JLPT) N2 レベル		
指導方法及び学生に期待すること	<p>日本語能力試験 N2 レベル相当の漢字・語彙・文法を習得する。</p> <p>日本人と同等に就職するため、日本人高校卒業程度の漢字を身に付ける。</p>		
その他	試験は語彙・文法一体で行う。		
	前 期		
授業の概要	<p>日本語能力試験 (JLPT) N2 の範囲に徹底した内容のテキストに沿い語彙・文法の授業を行う。</p> <p>毎日語彙 20 問のプリントを行い、語彙数を増やし、語彙能力の定着を計る。</p>		
到達目標	<p>日本語能力試験 (JLPT) N2 の合格。</p> <p>N2 レベルの基礎的な語彙・漢字を理解し、日常生活や学生生活の場面において、より複雑な内容を読み、話せるようになる。</p>		
成績評価方法	期末試験 (45%) 単元別テスト・提出物 (50%) 出欠席 (5%)		
テキスト・副読本	<p>テキスト：</p> <p>「TRY! 日本語能力試験 文法から伸ばす日本語 N2」 ABK アジア学生文化協会 「改訂版 耳から覚える日本語能力試験 語彙トレーニング N2」 アルク出版</p>		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	言語基礎 IB (読解)	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	岡崎 良美
時 間 数	前期: 60 時間 / 後期: 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	日本語能力試験 N2 レベルの「読む・書く・聞く・話す」のうち「読む」力を錬成する。短文・中文・長文の基本練習により内容理解力を養う。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	日本語能力試験 (JLPT) N2		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<p>さまざまな話題の長文を読み、文章表現などを理解しながら読解を行うと同時に、感想・意見をまとめ、話す・書く等のアウトプットを通して、日本語力の定着を図る。またトピックの背景となる素養・語彙も増やし、コミュニケーションができるようになることを期待する。</p> <p>そして、どんな文章においても、まずは筆者が読者に何を伝えようとしているのか、その文章を書いた意図をとらえながら、深読みしていくことをすすめ、文章の「テーマ」と「筆者の言いたいこと」をグループワークを通してまとめていく。</p>		
そ の 他	前 期		
授 業 の 概 要	テキスト内の読解部分を中心に学習。		
到 達 目 標	<p>日本語能力試験 (JLPT) N2 合格</p> <p>N2 レベルの「読む・書く・聞く・話す」能力のうち、読みのストラテジーを身に付ける。情報を素早く正確に読み取り、幅広いトピックに対応できる素養を身に着ける。問題に応じて、スキミングとスキミングの力を使い分ける能力を養う。</p>		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (45%) 単元別テスト・提出物 (50%) 出欠席 (5%)		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	<p>テキスト:</p> <p>「新完全マスター読解 N2」スリーエーネットワーク</p>		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	CAD 演習 I (3D)	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	玉置 順一
時 間 数	前期：30 時間 / 後期：時間	実務経験：機械系大学にて、機械設計・材料力学等の機械系分野を履修後、ソフトウェア企業にて工業系システムエンジニアとして、システム開発の上流工程から下流工程、運用と幅広く従事した経験を活かし、情報系実習指導を行う。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	多くの製造業界などで活用されている3DCADについて、イメージを作り実際にモデリング基礎から実践まで体系的に学ぶ。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	なし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	ThinkerCAD による 3DCAD の基本を習得し、基本的な立体の作図を行う。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	ThinkerCAD で 3DCAD の基礎を学び立体の作図を行う。		
到 達 目 標	ThinkerCAD で 3DCAD の作図ができる。		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (55%)、課題提出 (40%)、出席率 (5%)		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	・ 自校作成テキスト他		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	ビジネス実務 I	科 目 区 分	一般科目・専門科目
開 講 期	前期・後期・通年	担 当 教 員	岡崎 良美
時 間 数	前期：33 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	<p>日々変化・進歩しているビジネス社会で働く「人財」になるためには、仕事を処理するために必要な専門知識はもとより、基本的な社会常識やビジネスマナー、さらには優れたコミュニケーション能力が必要となってくる。</p> <p>留学生が、日本や日本と母国の架け橋として働くために、必要な社会常識、ビジネスマナー、コミュニケーション能力の習得を目的とした講義内容とする。</p>		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	・ 社会人常識マナー検定 Japan Basic		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	講義と共に一般常識等の確認テストや社会人になるための動機づけ、やりがいなどを具体的に学生に伝え、日本と母国の架け橋になる社会人として活躍できる「人財」を目指す。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	社会人として必要である、明確な目標設定、マナー・モラルの向上、一般常識の向上を学ぶ。社会人常識マナー検定 Japan Basic の受験を通して、日本特有の文化的背景についても理解を深める。		
到 達 目 標	<p>①明確な個人目標設定ができ、クラス目標も設定し、それに向かってクラスメイトと協力しながら努力できる。</p> <p>②マナー・礼儀を身に付け、社会人としての判断ができる。</p> <p>③中学・高校レベルの一般常識を復習し、就職試験に備える。</p>		
成 績 評 価 方 法	・ 期末試験 (95%)、出欠席 (5%)。		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	<p>「O I C キャリアサポートプログラム」</p> <p>「社会人常識マナー検定テキスト Japan Basic」エデュプレス</p>		

令和 6 年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	パソコン基礎演習 (Word/Excel)	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子
時 間 数	前期：32 時間 / 後期： 時間	業務経験：	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	パソコンの操作方法や日本語入力の基礎から、フォルダーやファイルの操作の基本を最初に学ぶ。以降はテキストの Word・Excel に関する操作方法をマスターする。		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	キー入力などの基本操作をしっかりと行い、まずはパソコンの操作に慣れさせる。以降はテキストの問題を順番にこなしていく。随時初めて使用する機能や関数などについては、問題を解かせる前にプロジェクターを使用して前で解説を行い、意味と機能を理解させる。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	Word・Excel の基本的なしくみと特徴 (計算・グラフデータベース等) を紹介しながら、情報の整理・加工方法などの基本的な操作方法を学ぶ。		
到 達 目 標	Word・Excel の基本機能と操作方法を習得する。テキストの課題をこなし、Word での自己紹介書の作成、Excel では基本的な関数を身につける。		
成 績 評 価 方 法	課題 (95%)、出欠席 (5%)		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	・ 留学生のためのかんたん Word/Excel/PowerPoint 入門(技術評論社)		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	通訳 I	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	難波 芳子 岡崎 良美
時 間 数	前期： 32 時間 / 後期： 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	日本の社会で母語を日本語に通訳できるようにするために日本語の文章力を身につける。また、共有認識がほとんどない相手に対して、自分の意見・考えを、理解・納得・共感してもらうことを求められる。プライベートで使う LINE やメールとは、作成する相手と目的が異なるため、書き方を変える必要がある。日本人と同じように自身の意見を相手に理解しやすい形で伝えられる書き方、伝え方ができるようになる。日本人学科の学生との交流授業で、自分の意見や考えを日本語で伝え、グループで発表ができるようにする。また、すららネットでの学びで、スムーズな通訳ができるように語彙力を高める。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	文章読解・作成能力検定 4 級		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	文章読解・作成能力検定 4 級の問題について理解できるように解説をする。また、学生が主体的に学べるように新しい単語は自ら調べ、グループ活動で問題解決ができるようにサポートしていく。通訳 II において文章読解・作成能力検定 4 級に合格できる基礎を身につける。		
そ の 他	日本語能力試験 (JLPT) を受ける前段階で読解力を身につけ、日本の社会で働く時に必要な文章力と会話力を身につける。		
	前 期		
授 業 の 概 要	後期に行われるキャリア実習での日誌や日本の社会において、社会人としてきちんとした文章が書け、話せるようにする。 また、アウトプットとして学内新聞の発行をする。		
到 達 目 標	学内新聞の発行 (9 月～10 月) 準備。 日本人学科との交流授業で自分の意見がきちんと話せる。 文章読解・作成能力検定 4 級の問題について理解できる。		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (文章検定 4 級問題) (95%)、出欠状況 (5%)		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎から学べる！文章力ステップ文章検 4 級対応 ・ 7 日でチャレンジ 文章作成ワーク ・ 文章検公式テキスト 4 級 公益財団法人 日本漢字能力検定協会 ・ すららネット 		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	Web サイト制作演習 I	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	玉置 順一
時 間 数	前期：16 時間 / 後期：時間	実務経験：機械系大学にて、機械設計・材料力学等の機械系分野を履修後、ソフトウェア企業にて工業系システムエンジニアとして、システム開発の上流工程から下流工程、運用と幅広く従事した経験を活かし、情報系実習指導を行う。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	Web およびサイトの制作手法について学ぶ。Web サイトの制作では、技術面だけでなく、関連技術やモラルなどもしっかり理解する必要がある、Web サイトの閲覧の仕組みや Web ページの制作に必要な注意事項についても学ぶ。		
目指す検定・資格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	初めて使用する機能や関数が出てきた場合には、問題を解かせる前に解説を行う。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	Web ページおよびサイトの制作手法について学ぶ。また、Web サイトの閲覧の仕組みや Web ページの制作に必要な注意事項についても学ぶ。		
到 達 目 標	HTML5 や CSS3 を基本から学び、レイアウトや配色など Web デザインの基礎知識を身につける。		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (65%)、確認テスト (30%)、出欠席 (5%)		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	30 時間でマスター Web デザイン 改訂版 (実務教育出版株式会社)		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	日本語能力試験 I	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	岡崎 良美 高橋 真実
時 間 数	前期：54 時間 / 後期：時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	日本語能力試験（JLPT）取得を目指し、語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題演習を行う。		
目指す検定・資格	JLPT 日本語能力試験 合格		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<p>語彙・文法・聴読解・会話作文の各授業で学んだ内容を、JLPT 試験の問題演習を行い、確実に合格できるようにしていく。</p> <p>日本語能力試験 JLPT の試験を同様の形式で行うことにより、自身の課題発見につなげる。</p> <p>また、検定前 4 週間は週に一度の模試を行い、検定1週間前には集中対策期間として、毎日、言語知識、読解、聴解と分野を分けて模試を行う。</p> <p>さらに模試の振り返りや自己学習の時間も設けて学習内容の定着を計る。</p>		
その他	なし		
	前 期		
授 業 の 概 要	模擬問題を中心とした問題演習と解説、模擬試験の実施		
到 達 目 標	<p>幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。</p> <p>細やかな日本語のニュアンス、相手が伝えようとしている本質的な部分の理解をすることができる。</p>		
成 績 評 価 方 法	期末(模擬)試験 (85%) 提出物 (10%) 出席率 (5%)		
テキスト・副読本	「全科目攻略！ JLPT 日本語能力試験ベスト総合問題集」(The Japan Times Publishing)		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際ITシステム学科		1 年
科 目 名	労務管理	科 目 区 分	一般科目・専門科目
開 講 期	前期・後期・ <u>通年</u>	担 当 教 員	難波 芳子
時 間 数	前期：16 時間 / 後期：16 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	グローバル社会が進む中で、留学生が採用された企業において、安心、安全に働くことができ、企業内での活動が円滑にできるようにする。そのために労働基準法を中心とする関連法令を習得する。		
目指す検定・資格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	日本企業における労働関係法令の内容を正しく理解・遵守するための知識を習得できるよう指導を行う。 また、労働基準法や労働組合法をはじめ、最低賃金法や労働安全衛生法といった様々な法律で定められている約束事のうち、労働者としての義務や権利をきちんと理解して日本の企業で働くことを期待する。		
そ の 他			
	前 期	後 期	
授 業 の 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・労働法について理解する ・労働条件に関するルールを理解する。 ・給与・年次有給等 	<ul style="list-style-type: none"> ・就業規則と各種保険・年金制度について理解する。 ・労働関係が終了するときの注意事項について 	
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・労働法について理解できる ・日本の企業での就業規則等について理解する ・母国に帰国する場合の注意事項について理解する（労働関係終了後の手続き等） 		
成 績 評 価 方 法	期末試験（95%）、出欠席（5%）		
テキスト・副読本	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめての人のための労務管理がよくわかる本 著者 片桐めぐみ 印刷株式会社 		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	コンピュータシステム I	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 普二
時 間 数	前期： 時間 / 後期：62時間	実務経験：長年システムエンジニアとして経験した上流工程から下流工程、運用フェーズ至るまで幅広い技術・知識を活かした指導を行う。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	コンピュータ及び、コンピュータに関わる様々な基本原理や基礎技術について学習する。また、これらの技術について理解を深めることにより、コンピュータに関する基礎的な知識の習得を目的とする。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	サーティファイ 情報処理技術者能力認定試験 3級の合格に必要なスキルを身につける。		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	講義中心で行い、基本的な IT に関する専門用語で自然にコミュニケーションができる。また急速に進化する IT 業界において、ニュース等で最新の情報も取り入れることで、新しい知識や技術に興味を持ち、主体的に学べる学生になって欲しい。 確認テストを行い、苦手分野を克服していく。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	・コンピュータに関する基礎的な知識・計算		
到 達 目 標	・コンピュータに関する基礎知識を習得する。 ・サーティファイ 情報処理能力認定試験 3級 合格		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (65%)、確認テスト (30%)、出欠席 (5%)		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	・情報処理試験合格へのパスポート コンピュータ概論 ウイネット ・情報処理技術者能力認定試験 3級問題集 サークティファイ情報処理能力認定委員会		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際ITシステム学科		1年
科 目 名	通訳Ⅱ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	難波 芳子 岡崎 良美
時 間 数	前期：時間 / 後期：32時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	日本の社会で母語を日本語に通訳できるようにするために、通訳Ⅰで身につけた知識を応用できるようにする。また、キャリア実習Ⅰにおいて、社会人としてのコミュニケーションや日本語で日誌や報告書が書けるようになる。また、すららネットでの学びで、スムーズな通訳ができるように語彙力を高める。		
目指す検定・資格	文章読解・作成能力検定4級 合格		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	通訳Ⅰで身につけた語彙力や文法力をレベルアップさせ、文章読解・作成能力検定4級の合格を目指す。新しい内容に入るときには、教師から学習のねらいやポイントを説明する。学生にとって主体的に学べるように新しい単語は自ら学び、グループ活動で問題解決ができるようにサポートしていく。		
そ の 他	総合的な日本語力を高めるために、アウトプットが明確になるよう学内新聞の発行を行う。(11月、1月発行予定)		
	後 期		
授 業 の 概 要	後期に行われるキャリア実習での日誌や日本の社会において、社会人としてきちんとした文章が書け、話せるようにする。		
到 達 目 標	文章読解・作成能力検定4級の合格を目指す。 学内新聞の発行 10月、1月		
成 績 評 価 方 法	期末試験（文章検定4級問題）(95%)、出欠状況（5%）		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	基礎から学べる！文章カステップ文章検4級対応 文章検公式テキスト4級 公益財団法人 日本漢字能力検定協会 すららネット		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	言語基礎ⅡA (語彙・文法)	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子 高橋 真実
時 間 数	前期：時間 / 後期：45 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	<p>日本で就職するために必要となる日本語能力試験 (JLPT) N2 を取得するために必要学習を行う。</p> <p>主に言語知識の語彙・文法の内容を行う。</p> <p>高橋：語彙・文法 小野：語彙 (漢字)</p>		
目指す検定・資格	日本語能力試験 (JLPT) N2 レベル		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<p>日本語能力試験 (JLPT) N2 レベル相当の漢字・語彙・文法を習得する。</p> <p>日本人と同等に就職するため、日本人高校卒業程度の漢字を身に付ける。</p>		
そ の 他	試験は語彙・文法一体で行う。		
	後 期		
授 業 の 概 要	日本語能力試験 (JLPT) N2 レベルの内容のテキストに沿って語彙・文法の授業を行う。毎日語彙 20 問のプリントを行い、語彙数を増やし、漢字能力の定着を計る。		
到 達 目 標	<p>日本語能力試験 (JLPT) N2 の合格。</p> <p>日本語能力試験 (JLPT) N2 レベルの基礎的な語彙・漢字を理解し、日常生活や学生生活の場面において、より複雑な内容が読み、話せるようになる。</p>		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (45%)、単元別テスト・提出物 (50%) 出欠席 (5%)		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	<p>「TRY! 日本能力試験 N2 文法から伸ばす日本語」(アスク出版)</p> <p>「改訂版耳から覚える日本語能力試験 N2 語彙トレーニング」(アルク出版)</p>		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	言語基礎ⅡB (読解)	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	岡崎 良美
時 間 数	前期：時間 / 後期：45 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	「言語基礎ⅡB」で身につけた日本語能力試験 (JLPT) N2 レベルの「読む・書く・聞く・話す」のうち「読む」力を用いて、より実践的な長文に対応できる読解力を養う。		
目指す検定・資格	日本語能力試験 (JLPT) N2		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<p>様々な話題の長文を読み、文章表現などを理解しながら読解を行うと同時に、感想・意見をまとめ、話す・書くのアウトプットを通して、日本語力の定着を図る。またトピックの背景となる素養・語彙も増やし、コミュニケーションができるようになることを期待する。</p> <p>さらに、どんな文章においても、まずは筆者が読者に何を伝えようとしているのか、その文章を書いた意図をとらえながら、深読みしていくことをすすめ、文章の「テーマ」と「筆者の言いたいこと」をグループワークを通してまとめていく。</p>		
そ の 他	後 期		
授 業 の 概 要	テキスト内の読解部分を中心に学習する。		
到 達 目 標	日本語能力試験 (JLPT) N2 合格 N2 レベルの「読む・書く・聞く・話す」能力のうち、読みのストラテジーを身に付ける。情報を素早く正確に読み取り、幅広いトピックに対応できる素養を身に着ける。問題に応じて、スキミングとスキミングの力を使い分ける能力を養う。		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (45%)、提出物 (50%)、出欠席 (5%)		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	テキスト： 「新完全マスター読解 N2」スリーエーネットワーク		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	システム制御演習 I	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	玉置 順一
時 間 数	前期： 時間 / 後期：15 時間	実務経験：機械系大学にて、機械設計・材料力学等の機械系分野を履修後、ソフトウェア企業にて工業系システムエンジニアとして、システム開発の上流工程から下流工程、運用と幅広く従事した経験を活かし、情報系実習指導を行う。	
科目の目的と講義内容	企業においては、製造部門ではシーケンス制御装置が多用されており、設計・開発部門では、CAD や CAE など支援ツールを活用して製品開発を行う場面が多くなってきている。本講義では、機械制御の実際と実機を利用して工場の制御システム及び PLC 言語の基礎を学習する。		
目指す検定・資格			
指導方法及び学生に期待すること	本実習では、PLC によるシーケンス制御実習システムの構築・実験を通して、計測・制御の知識・技術を身につける。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	配布テキストに基づき、課題実習を行い、その都度提出する。 シーケンス制御システムの構築を行う。 三菱メルウェアラダーソフトよりラダー言語のプログラミング技術を学び、理解できる。		
到 達 目 標	1. シーケンス制御の基本が理解できる。 2. PLC プログラムを作成し、動作を確認することができる。		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (90%)、授業態度 (5%)、出欠席 (5%)		
テキスト・副読本	自校作成		

令和6年度 シラバス

学科・学年	国際ITシステム学科		1年
科目名	アルゴリズム概論	科目区分	一般科目・ 専門科目
開講期	前期・ 後期 ・通年	担当教員	小野 普二
時間数	前期： 時間 / 後期：45時間	実務経験：長年システムエンジニアとして経験した上流工程から下流工程、運用フェーズ至るまで幅広い技術・知識を活かした指導を行う。	
科目の目的と講義内容	プログラム作成時に必要なアルゴリズムについて学習を行う。プログラムの流れを考え、定められた記号を使い記述するものであるため、正解が一つではない事を第一に理解する。また、如何に効率よく作れるか、論理的に処理手順を考える能力を身に着ける。さらに基礎でパターン化された手順を学び、その後、応用問題を解く事により理解度を深める。また別の記述形式として疑似言語も学ぶ。		
目指す検定・資格	サーティファイ 情報処理技術者能力認定試験3級 合格		
指導方法及び学生に期待すること	グループ学習を行い、お互いに説明をし合いながら、アルゴリズムの流れ考え方を身につける。 確認テストを行い、苦手分野を克服していく。		
その他			
	後 期		
授業の概要	プログラムの流れを考え、定められた記号を使い記述するものであるため、正解が一つではない事を第一に理解する。また、如何に効率よく作れるか、論理的に処理手順を考える能力を身に着ける。基礎でパターン化された手順を学び、その後、応用問題を解く事により理解度を深める。		
到達目標	基礎的なアルゴリズムの流れ、考え方を身につけることを目的とする。 また、サーティファイ 情報処理技術者能力認定試験3級 合格を目指すことでアルゴリズムの能力を高める。		
成績評価方法	期末試験 (65%)、確認テスト (30%)、出欠席 (5%)		
テキスト・副読本	・情報処理試験合格へのパスポート アルゴリズムとデータ構造 ウイネット		

令和6年度 シラバス

学科・学年	国際 IT システム学科		1年
科目名	Web サイト制作演習Ⅱ	科目区分	一般科目・ 専門科目
開講期	前期・ 後期 ・通年	担当教員	小野 普二
時間数	前期： 時間 / 後期：30時間	実務経験：長年システムエンジニアとして経験した上流工程から下流工程、運用フェーズ至るまで幅広い技術・知識を活かした指導を行う。	
科目の目的と講義内容	Web サイト制作演習Ⅰに引き続き、Web サイトの制作手法について学ぶ。Web サイトの制作では、技術面だけでなく、関連技術やモラルなどもしっかり理解する必要がある、Web サイトの閲覧の仕組みやWeb ページの制作に必要な注意事項についても学ぶ。		
目指す検定・資格	特になし		
指導方法及び学生に期待すること	初めて使用する機能が出てきた場合には、問題を解かせる前に解説を行う。		
その他			
	後 期		
授業の概要	Web サイトの制作手法について学ぶ。また、Web サイトの閲覧の仕組みや Web ページの制作に必要な注意事項についても学ぶ。		
到達目標	Web サイト制作演習Ⅰに引き続き、HTML5 と CSS3 を使って、レイアウトや配色など Web デザインの基礎知識を身につける。		
成績評価方法	期末試験（65%）、確認テスト（30%）、出欠席（5%）		
テキスト・副読本	30時間でマスター Web デザイン 改訂版 （実務教育出版株式会社）		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	ビジネス実務Ⅱ	科 目 区 分	○一般科目○ ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ ○後期○ ・ 通年	担 当 教 員	岡崎 良美
時 間 数	後期：30 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	<p>日々変化・進歩しているビジネス社会で働く「人財」になるためには、仕事を処理するために必要な専門知識はもとより、基本的な社会常識やビジネスマナー、さらには優れたコミュニケーション能力が必要となってくる。</p> <p>留学生にとって、日本と母国の架け橋として働くために、必要な社会常識、ビジネスマナー、コミュニケーション能力の習得を目的とした講義内容とする。</p>		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<p>講義と共に一般常識等の確認テストや社会人になるための動機づけ、やりがいなどを具体的に学生に伝えていき、日本と母国の架け橋になる社会人として活躍できる「人財」を目指す。</p>		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	キャリア実習に向けて、日本企業の働くうえで必要なことを、実務レベルで学んでいく。		
到 達 目 標	<p>① 実習の目的を理解し、自身の将来の目標とつなげることができる。</p> <p>② マナー・礼儀を実務レベルで身に付け、実践できるようにする。</p> <p>③ キャリア実習に向けて、グループで業界研究や会社研究を実施する。</p>		
成 績 評 価 方 法	・ 期末試験 (95%)、出欠席 (5%)		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	「改訂ビジネスマナー・基本テキスト」(キャリア総研)		

令和6年度 シラバス

学科・学年	国際 IT システム学科		1年
科目名	C 言語プログラミング演習 I	科目区分	一般科目 ・ 専門科目
開講期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担当教員	新谷 敏朗
時間数	前期：時間 / 後期：60 時間		
科目の目的と講義内容	<p>プログラミング言語として長い歴史を持ち、システムプログラム向きの言語として確固たる地位にある C を使いこなす能力を身に着けることを目的とする。そしてその能力を裏付ける資格試験に合格することが具体的な目標である。内容は文字列表示から始めて、基本データ型による演算、条件分岐や繰り返しなどの制御構造、配列、ポインタ、関数、構造体と進み、さらにスコープ、プリプロセッサ機能、標準入出力、ファイル入出力に至る。</p> <p>結果として、単に資格取得のみならず、実用的なプログラム開発能力が得られるようになるための、数多くの具体的な機能を持ったプログラムを作成する経験を積むようにする。</p>		
目指す検定・資格	サーティファイ C 言語プログラミング能力認定試験 3 級		
指導方法及び学生に期待すること	大事なところを強調して、メリハリをつける。学生の理解度に応じた説明をする。予習と復習を毎回していただきたい。		
その他			
	後 期		
授業の概要	<p>統合開発環境 Visual Studio 2022 Community Edition を使いこなして、効率よくコード入力、コンパイル、実行、デバッグができるようになるように進めていく。また、教科書の章末練習問題によって、理解度を確認し、応用課題を適宜提供しながら、履修学生とのコミュニケーションを密にして、動機づけを図る。</p> <p>最後の 3 週間は、資格試験対策の演習を重点的に実施する。</p>		
到達目標	<p>C 言語プログラミング能力認定試験 3 級試験範囲の内容を理解すること</p> <p>それにより、1 月に実施される試験に合格可能な C 言語に関する能力を得ること</p>		
成績評価方法	課題提出物 (65%)、確認テスト (30%)、出欠席 (5%)		
テキスト・副読本	<p>情報処理試験合格へのパスポート C プログラミング ウイネット</p> <p>・ 本校独自のオリジナル実習課題集</p>		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	ビジネス英語 I	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	難波 芳子
時 間 数	前期：時間 / 後期：30 時間	実務経験：米国大学卒業後、英会話教室にて幼児～高校生までに英会話を教えていた経験を活かし、学生が、IT 関連企業において IT エンジニアとして発話や英語が理解できる力を身につけられるように講義する。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	<p>グローバル社会が進む中で、IT 関連企業において外国人エンジニアの採用が積極的に行われている。日本で日本人と一緒に勤務する上では日本語コミュニケーション力が必要であるが、海外展開をしていく上では、共通語である英語コミュニケーション力が求められる。母国語・日本語と同じように IT 企業におけるエンジニアとして英語にて対応できる基礎英語の理解を身につけることを目的としている。</p> <p>また、日本人学科の学生との交流授業で、母国と日本の SDGs の違いをグループで検証し、各グループでスライドを作成し、発表する。</p>		
目指す検定・資格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	英語による外国の文化や教育観、また世界で意識されている SDGs の問題を取り上げ、学生が興味ある題材で、楽しく英語を学んでほしい。社会は急速にグローバル化し、英語で基本的なコミュニケーションが取れる必要性は今後ますます高まってくる。日常生活の中で、基礎的な英語が使えるようにしてほしい。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活の簡単な英会話をはなす ・ SDGs の問題について考える 		
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活の簡単な英会話が理解できる ・ SDGs について理解する 		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (95%)、出欠席(5%)		
テキスト・副読本	<ul style="list-style-type: none"> ・ CNN Short News for Listening SDGs 朝日出版社 		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	日本語能力試験Ⅱ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	岡崎 良美 高橋 真実
時 間 数	前期：時間 / 後期：50 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	日本語能力試験（JLPT）取得を目指し、語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題演習を行う。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	日本語能力試験（JLPT）合格		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<p>語彙・文法・聴読解・会話作文の各授業で学んだ内容を、日本語能力試験（JLPT）の問題答練として演習し、確実に合格できるようにしていく。日本語能力試験（JLPT）の試験を同様の形式で行うことにより、自身の課題発見につなげる。</p> <p>また、検定前 3 週間は週に一度の模試を行い、検定1週間前には集中対策期間として、毎日、言語知識、読解、聴解と分野を分けて模試を行う。</p> <p>模試の振り返りや自己学習の時間も設けて学習内容の定着を計る。</p>		
そ の 他	期末試験においても JLPTN1 の範囲に沿って受験級ごとに実施。		
	後 期		
授 業 の 概 要	模擬問題を中心とした問題演習と解説、模擬試験を実施する。		
到 達 目 標	幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。		
成 績 評 価 方 法	期末(模擬)試験（85%、）提出物（10%）、出席率（5%）		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	「全科目攻略！ JLPT 日本語能力試験ベスト総合問題集」(The Japan Times Publishing)		